

令和 8 年度第 2 回臨時理事会 議事録

日 時：令和 8 年 6 月 27 日（土）11:00～12:45

会 場：都市センターホテル 3 階コスモスホールⅡ

出 席 者（下線は Web 参加者）

理 事 長：万代 昌紀

副理事長：鈴木 直、関沢 明彦

理 事：磯部 真倫、井篁 一彦、岡本 愛光、梶山 広明、加藤 聖子、金西 賢治
亀井 良政、川名 敬、甲賀かをり、小林 陽一、齋藤 豪、齋藤 昌利
角 俊幸、谷口 文紀、永瀬 智、中島 彰俊、廣田 泰、増山 寿、
松村 謙臣、三浦 清徳、吉野 潔、布施 泰子

監 事：青木 大輔、大須賀 穰、木村 正、芝野 彰一

顧 問：藤井 知行、吉村 泰典

特任理事：山上 亘、山本 英子

専門委員会委員長：佐藤 豊実

第 79 回学術集会長：宮城 悦子

第 79 回学術集会プログラム委員長：水島 大一

第 80 回学術集会プログラム委員長：松岡 隆

幹 事 長：小出 馨子

副幹事長：春日 義史

幹 事：衛藤英理子、太田 剛、梶村 慈、金城 泰幸、佐山 晴亮、澁谷 裕美、
渋谷 祐介、竹中 将貴、千草 義継、道佛美帆子、中川 慧、中村健太郎、
蜂須賀一寿、福田 武史
前林 亜紀、芳川 修久

議 長：久具 宏司

副 議 長：小玉美智子、中塚 幹也

名誉会員：小西 郁生

事 務 局：正宗 玄、吉田 隆人、加藤 大輔

11:00 定刻になり、理事長、副理事長、理事の計 25 名（田中守理事は欠席）が出席し、定足数に達しているため、万代昌紀理事長より開会の宣言があった。なお本会議は現地開催の予定であったが、台風のため急遽ハイブリット開催に変更。Web 会議システム（Zoom）を併用しての開催のため、現地出席者の音声や映像が即時に web 出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたうえで議案の審議に入った。

I. 議事録(案)の承認について

(1) 令和 8 年度第 1 回理事会 (5/30) 議事録(案)の承認

本件に関しては特に異議はなく全会一致で承認された。

II. 令和 8 年度定時総会運営について

万代昌紀理事長「この後の定時総会では、予定議案について事前の質問・要望事項は届いていないので、次第に沿って進めて頂くことになります。」

III. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

1) 総 務（鈴木直副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

- ・前田 一雄^{まえだ かずお} 名誉会員（鳥取）が、令和 8 年 5 月 22 日にご逝去された。
- ・上原 茂樹^{うえはら しげき} 功労会員（宮城）が、令和 8 年 4 月 19 日にご逝去された。

(2) 令和 9 年度日本産科婦人科学会予定表（案）について

[資料：総務 1]

鈴木直副理事長「令和 9 年度の会議予定は 9 月 5 日の第 2 回理事会で確定させますので、別の行事と重なっている等の事情があれば、事前に事務局までご相談下さい。」

(3) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会(谷口文紀委員長)

① 会議開催

「ゲノム編集技術等を用いたヒト受精胚等の取扱い等に関する検討」プロジェクトチーム Web 会議	6 月 18 日
令和 8 年度第 1 回 生殖・内分泌委員会	8 月 17 日【予定】

- ② こども家庭庁・文部科学省・厚生労働省の合同会議における「ゲノム編集技術等を用いたヒト受精胚等の取扱い等に関する検討」に対する日本産科婦人科学会への専門的な意見のお伺いについて、臨床倫理監理委員会および有識者で結成したプロジェクトチームで検討した。

谷口文紀委員長「こども家庭庁、文部科学省、厚生労働省の合同会議で、ゲノム編集技術等を用いたヒト受精胚等の取扱い等に関する会議を 6 月 18 日、6 月 25 日に行った。こども家庭庁からの依頼に基づき本会では、生殖内分泌委員会、臨床倫理管理委員会、及び有識者約 10 名でプロジェクトチームを結成して 2 度 Web 会議を行ない、最近の CRISPR-Cas や HDAC インヒビター等、核酸の修飾を伴う薬剤を用いたヒト胚の宮内移植は原則禁止とされている件に関する意見収集を行った。現在の不妊治療で使われているなど、様々な培養液や卵子活性化に関する意見を纏めた上で、7 月 15 日に私が合同会議でプレゼンを行う。その内容については今週、来週中くらいに理事の先生方にメール回覧するので、ご意見をいただきたい。」

万代昌紀理事長「ゲノム編集ということで、学会として科学的なこと全てに應えるというのは難しいが、谷口先生が専門の先生方を招集してご意見をまとめていただいている。実臨床の方が困らないような形のものを作ってもらえることが大切と思っている。」

木村正監事「こども家庭庁からの提案を見ておりますと、何でも規制をするという姿勢が結構あるので、臨床現場が困らないことが大事だと思います。例えば、培養液は市販のものを使っており、市販のものの中に添加されていると現場が分からないまま使っていることがあると思います。現場の責任にならないような形でのご提案をぜひお願いしたい。」

③活動報告

多胎に対する診療実態と減数手術に関する全国調査

谷口文紀委員長「これも木村先生からご指導いただいた話だが、多胎に関する診療実態と減数手術に関する全国調査を生殖・内分泌委員会で行うことになり、その内容については、大阪大学が既に作成している論文をベースに相談し、鳥取大学医学部倫理審査委員会で最終審議中である。7月に全ART実施施設を対象としたアンケート調査を実施する予定である。」

④Polycystic ovary syndrome (PCOS) の Polyendocrine metabolic ovarian syndrome (PMOS) への国際名称の変更について、日本内分泌学会と情報共有し、用語委員会に日本語名称について検討を依頼した。 [資料：専門委員会 3]

谷口文紀委員長「PCOSが、国際的に Polyendocrine metabolic ovarian syndrome (PMOS) と変更されており、日本内分泌学会と情報共有して、当学会の用語委員会に日本語名称について検討を依頼している。」

久具宏司議長「この件はつい先日行われた日本内分泌学会でも話題になった。内科の先生もかなり PCOS には関係しているので、産婦人科だけで決めるのではなく、もう少し広い範囲で決めた方が良い。」

廣田泰理事「日本内分泌学会で幹事をしており、この件で関わっている。日本内分泌学会の用語の委員会にも話は通しており、とりあえず本会有一些程度案を固めて、それを日本内分泌学会に共有し、そこでコンセンサスを得るという話になっている。」

万代昌紀理事長「了解しました。生殖・内分泌委員会を中心に内科の先生、日本内分泌学会とも連絡を取りながら、決まった案を用語委員会に回していただくという形でお願いします。」

(ロ) 婦人科腫瘍委員会 (佐藤豊実委員長)

①会議開催

婦人科悪性腫瘍に対する低侵襲手術の普及に関する小委員会	6月18日
令和8年度第2回婦人科腫瘍委員会	8月17日【予定】

②ヒスロンH錠200mgおよび後発医薬品（一般名：メドロキシプロゲステロン酢酸エステル）の供給不足について、6月9日に厚生労働省を訪問し、日本産科婦人科学会および日本婦人科腫瘍学会より現状説明と対応策について要望を申し入れた。また、公益社団法人 日本婦人科腫瘍学会と連盟で、公益社団法人日本薬剤師会宛に薬局間連携への協力を依頼した。 [資料：専門委員会 1-1, 1-2]

③ロボット支援婦人科悪性腫瘍手術に係る施設登録申請期間中の取扱いについて、令和8年度に限る経過措置を認める旨の文書を、6月3日付で発出した。

[資料：専門委員会 2]

④6月1日より日産婦ホームページ上で新たに施設登録申請の受付を開始した。これまでのところ、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の「施行施設」申請は、（子宮頸がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）は58件、（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援

機器を用いる場合または、腹腔鏡手術）は 63 件。また、腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）・（二期的に傍大動脈リンパ節郭清を実施する場合）の「登録施設」は 25 件の申請があった。

⑤腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る）をはじめとした 4 つの術式の登録施設施行において、申請時の必要書類としていた「施設基準届出に対する厚生局の受理通知」について、個別の通知書の発行が停止された。これを受け、今後の登録施設施行について、婦人科悪性腫瘍に対する低侵襲手術の普及に関する小委員会にて検討し、厚生局への申請および掲載についてのチェックボックスを設けることとした。

⑥厚生労働省がん・疾病対策課より、性交渉歴のない方に対する子宮頸がん検診に関する本会の見解について照会があり、本委員会において審議のうえ回答を行った。

佐藤豊実委員長「①会議開催は記載の通り。②ヒスロン H、子宮体がんの妊孕性温存の時に使う薬が供給不足になっております。これに対しては、厚生労働省を 6 月 9 日に訪問して、要望等申し入れを行った。在庫の不均衡が各都道府県等でありそうだとすることで、薬剤師会に連携の協力をお願いした。③ロボット支援婦人科悪性腫瘍手術に係る施設登録は、今年度は経過措置ということで、登録の手続きと対象術式の実施に関しては、これは並行して行ってよいという文章を 6 月 3 日付で出している。④本会のホームページ上で新たに施設登録申請の受付を開始した。件数は記載の通り。⑤に関してはご協議いただきたい。婦人科の子宮悪性腫瘍手術をはじめとした 4 つの術式に関して施設登録を行う際に、申請の時に施設基準届出で厚生局から受理の通知が来るわけで、それを申請の時の必要書類としておりました。ただ、個別の通知が行われなくなってしまうっており、これを申請書類として添付することが物理的にできない。ということで、各地域の厚生局のところに入っていただきますと、その申請が掲載されていることが分かりますので、この件につきましては、申請時に『登録の申請をしており、掲載された』ということをチェックボックスで確認するようにしました。」

万代昌紀理事長「自己申告でチェックボックスを付けていただくということですね。

本件について参加者から異議なく、承認された。」

佐藤豊実委員長「⑥ 厚生労働省から、性交渉歴のない方に対する子宮頸がん検診に関する見解を求められまして、こちらは婦人科腫瘍委員会で検討して、森定徹先生を中心に、青木大輔先生のご意見などもいただいた上で厚生労働省に答申を返しております。CINtec という細胞診で LSIL が出た場合の p16 タンパクと Ki-67 タンパクの二重染色に関して、p16 タンパクと Ki-67 タンパクとの二重染色に関する事項ですが、こちらは無事に進んでおり、5 月 30 日の理事会でお認めいただいた周知分を予定通りに発行することができると考えている。」

(ハ) 周産期委員会(関沢明彦委員長)

①会議開催

令和 8 年度 第 1 回周産期委員会 (Web)	6 月 8 日
---------------------------	---------

②厚生労働科学特別研究事業「安全な無痛分娩実施のための体制構築のための研究」研究代表者の海野信也先生より受領した「安全な無痛分娩実施のための体制構築に関する提言（新提言）」に対する意見を、第 1 回臨時理事会の承認後に提出した。その後、

修正案が提示されたことを受け、委員会および理事会メンバーの意見を反映した意見書を再度取りまとめ、提出予定である。

[資料：専門委員会 4-1～4-3]

関沢明彦副理事長「安全な無痛分娩実施のための体制構築に関する提言に関しては、第1回の臨時理事会で議論いただいて回答した。今後、無痛分娩の保険収載、公費補助が拡大していくことも予想されるが、無痛分娩実施時の施設要件について明確にしておかないと、長期的な目標にあるレベルの要件を求められる可能性があり、その定義をもう少し明確化してほしいと記載した。2番目は、無痛分娩を麻酔担当者と産科担当者の二名体制で管理するということになると、分娩を行う医師の配置を根本的に考え直す必要が出てきて、特に地方において施設を維持できないところも増えてしまう。また、麻酔を担当できる医師をどうやってこれから養成していったらいいか、それに対してどれくらい時間と経費がかかるのか、というようなことの議論も必要である。分娩料金の無償化等検討されているが、そういった体制整備が必要になると分娩料金自体にも影響するため、こういった議論はもう少し社会的な議論も踏まえながら進めていく必要がある。3番目が、無痛分娩の診療ケア担当チームで無痛分娩を行うということだが、基本的に無痛分娩を管理する責任者は、産科麻酔に習熟した麻酔専門医ということが記載されており、当学会から出した無痛分娩に習熟した産婦人科医がいればよいとする要望が却下されている。また、4番目は麻酔科医の指導のもとでということ、無痛分娩全体が管理されることになっているが、分娩についての管理責任が産婦人科医にないといっているのか、分娩の責任は全て麻酔科医にあるのか。やはり責任の所在をはっきりしていかないと、麻酔科医の指導の下で組織して管理しろと言われても困る。また、そういったチームの中に無痛分娩指導助産師というアドバンス助産師に相当するような役職を配置することが記載されているが、このことは今後検討していくという程度の書き方でよいと考える。結論のところでは、現在の周産期医療においては、分娩の半分を診療所が担っていて、患者のアクセスを確保しながら、安全な医療を提供していく必要がある。周産期センターと地域の診療所や病院の地域連携の強化が図られて安全性が担保されてきたなかで、そういった体制をうまく活用して、地域の実情に応じた柔軟な選択、運用ができるような整備、そういったことが必要ではないかということに記載している。このような内容の意見書を作成したが、その内容についてご意見頂きたい。」

万代昌紀理事長「非常に重要な内容である。医会のお考えはご存知か？」

関沢明彦副理事長「医会も同じように海野班から回答が返ってきており、対応を今週、常務理事会で議論し、再度、意見書を書いて、しっかり意見を主張していくということと、今回の提言を修正したとしても、大きく修正できないであろうことを考えると、賛同と意見表明はできないので、『否』とチェックして送り返すことが決まった。」

万代昌紀理事長「もう一つ確認ですが、この厚労科研の提言は今後どういう役割を果たすのでしょうか。」

関沢明彦副理事長「2018年に出た提言の改定版という位置づけです。2018年に出した提言というのは、麻酔の研修を、麻酔をする人は全員がしっかり受けていきたいと思いますとか、有害事象があったら報告しましょうとか、情報公開をして、麻酔をかける医師にどれくらい研修歴があるのか、そういった実際的な情報をホームページ上で開示して、妊婦さんが選べるような体制にしましょうとか、そういった内容でした。その提言をもとに、実際的に、JALAという組織ができて活動しています。それに基づいて研修もかなり行われるようになっていきますし、各施設も努力して情報公開とかそういったことも少しずつ進んでいる状況だと思いますので、医会の中では、やはり、そういった努力をしている成果をしっかり評価して、その評価をもとに次の提案をしていく必要があるという意見です。医

療体制全体の中で、現状どうなっているのかを少し評価するようなステップにおいて、学会と医会と一緒に検討して事実を示した上で今後の議論をしていかないと、なかなかうまく議論が進んでいかないのではないかと考えています。」

万代昌紀理事長「ありがとうございます。この提言がそのまま行政に取り上げられて、これを何かの形で押し付けられるということになると…」

関沢明彦副理事長「やはりそれをさせるための条件づくりをさせる事業だったのだと思います。」

万代昌紀理事長「ありがとうございます。解説いただきましたが、いかがでしょうか。関沢先生の案としましては、本会としても承認できないという形で返すべきということでしょうか。」

関沢明彦副理事長「今回の提言で根本的に変わることは、無痛分娩は2人の医師が24時間管理する体制にもっていくということで、現実的な医療体制として、社会的にもゆっくり議論して検討していく課題であると思っています。」

万代昌紀理事長「はい、いかがでしょうか。専門の先生方含めて、本当に内部でいろいろあるみたいですが、亀井先生いかがですか。」

亀井良政常務理事「私も海野先生のこの検討会の班のメンバーでした。いろいろメールでは申し上げましたけれども、基本的には、麻酔科の先生主導でした。麻酔科の先生の理想がこうで、班長はそれに従って、ご自分の中でもこういったシナリオを作っておられました。無痛分娩そのものを保険収載するかどうかというのは、麻酔科学会の中でまだ纏まっておらず、そこもまだどう動くかわからないような状況なので、そこも含めての議論が今後進んでいくのかなと思います。理想はこうで、医療体制のことは別に考えます、ということの大前提として班の最初に言われましたので、麻酔科の希望はこう、産科の希望はこう、という形のダブルスタンダードは絶対作りません。と最初に明言されたので、こういった形になったのかなと思います。」

万代昌紀理事長「はい、ありがとうございます。今日は深く議論する時間はありませんが、どこかで時間を取って、もうちょっと皆さんとか、地方の意見を聞いた方が良いと思います。今後、無痛分娩は必ず広がってきますので、そこで完全に麻酔科にイニシアティブを握られてしまうというのは、我々がやっていく上で、すごく問題になることが危惧される。今回に関しては少なくとも我々の意見を全面的に取り入れて、もう1回我々がチェックするのでなければ認めない、承認しないということでお返しするということがよろしいですかね。」

関沢明彦副理事長「この案で週明け返事させていただきたいと思います。」

③周産期における遺伝学的検査結果のバリエーション評価に関する留意点（案）について

[資料：専門委員会 5]

関沢明彦副理事長「『周産期における遺伝学的検査結果のバリエーション評価に関する留意点』というものを周産期委員会内の周産期遺伝に関する小委員会で作成しております。出生前検査などでもNGSがよく使われるようになっており、そこでバリエーションが見つかった場合に、どういうふうな注意が必要かということで、まとめてあります。またご確認いただき、何か意見等ありましたら、事務局までお寄せいただければ検討させていただきます。意見等なければ、周産期委員会内のホームページの周産期報告という欄に掲載させていただくことを考えております。周産期委員会のホームページの『周産期委員会報告』の欄ですけど、Committee Report みたいな形にして掲載させていただきます。委員会が発出したこれまでのレポートですが、結構埋もれていて何が最新情報なのか分かり難くなってい

ます。番号を付けるなどして、埋もれないような形で見やすく表示できるように改訂しようと思っている。」

(二) 女性ヘルスケア委員会 (岩佐武委員長)

① 会議開催

令和 8 年度第 1 回女性ヘルスケア委員会	6 月 23 日
------------------------	----------

② 厚生労働省より作成依頼を受けた「女性のヘルスケアに関するガイドランス（中高年期編）」については、概要がまとまり、近日中に発刊予定である。

③ 『PMS・PMDD 診断治療管理指針』の一般向け解説冊子作成と普及活動に関する小委員会 宝くじ協会の助成を受けている本事業については、現在、小委員会において『PMS・PMDD 診断治療管理指針』冊子の作成を進めている。完成後は、親委員会の承認を経て、広報委員会へ申請のうえ、日産婦ホームページ上に掲載予定である。

④ 書籍頒布状況

書籍名	5 月販売	累計販売数
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステン配合薬 ガイドライン 2020 電子版付	62	8,244
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	26	1,654

(4) 「SRHR に関する学会連携諮問委員会」特になし

(5) 「学会規約等に関する検討 WG」

① 会議開催

令和 8 年度第 2 回（通算 8 回）学会規約等に関する WG（WEB 開催）	8 月 7 日【予定】
--	-------------

② 発出する文言の分類と会議体の役割について

[資料：総務 2]

鈴木直副理事長「総務の中の松村先生に担当いただいている学会規約等に関する検討ワーキンググループにおいて、5 月 14 日に札幌で開催された第 1 回臨時総会で承認頂いた本会規約の 7 つのカテゴリーについて、立案・承認・報告といった会議体の役割案を検討頂きました。会告と見解については、理事会で仮承認して運用を開始することができる、但し、その場合でも、その後の総会での承認を必要とするといった文言を加えた。本件について、協議頂きたい。」

万代昌紀理事長「先日の理事会での議論を経まして、やはり会告と見解、特に見解に関しては非常に重要なものなので、理事会だけで決めて総会には報告のみというのは問題があるというご意見が多かったと思います。そこで、会告と見解に関しては総会承認マターであるということを明確にし、一方で、改定が必要となった場合に 1 年に 1 回の総会を待つとか、或いはそのたびに臨時総会を開催するというのは非現実的だと思いますので、次回総会までの間は、理事会の承認をもって運用を開始することができることにしたいと考えています。但し、その場合でも総会で反対意見が出た場合には、改めて考え直さないといけないというような形で運用させて頂きたい。このような運用について、本日の総会でご説明させていただこうかと思っておりますが、よろしいでしょうか。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6)「胚培養士資格制度検討 WG」

①会議開催

令和 8 年度第 2 回胚培養士資格制度検討 WG（WEB 開催）	8 月 5 日【予定】
-----------------------------------	-------------

(7)「プレコンセプションケア推進 WG」

①会議開催

令和 8 年度第 1 回プレコンセプションケア推進 WG（WEB 開催）	6 月 29 日【予定】
--------------------------------------	--------------

②本 WG が今後予定している活動内容を考慮し、小野洋輔先生（山梨大学）を追加委嘱したい。

委員委嘱期間：令和 8 年 6 月 27 日～令和 9 年 6 月 26 日（令和 9 年度定時総会終了まで）

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8)団体保険制度募集の案内について

本会では、会員向けの福利厚生の一環として 4 つの団体保険制度「①勤務医師賠償責任保険」「②所得補償保険」「③産業医活動保険」「④日常生活サポートプラン」の案内を毎年実施しているが、2026 年度の募集についても、本会ホームページに掲載し会員に周知する予定である。①、②については Web からの申し込みが可能。 [資料：総務 2-1]

〔Ⅱ．官庁関係〕

(1) 厚生労働省・こども家庭庁

①会員周知依頼（ホームページに掲載済、◇はメール案内も実施、■は受領のみ）

依頼元		内容	資料
厚生労働省	医政局研究開発政策課	再生医療等の提供に関連した「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」に基づく手続等について（再々周知）	総務 3-1
		「「特定機能病院に関する事項について」の一部改定等について」について	総務 3-2
	年金局事業管理課	国民年金第 1 号被保険者の育児期間に係る国民年金保険料免除制度の周知について（協力依頼）	総務 3-3
	医政局研究開発政策課	「特定細胞加工物の微生物学的安全性に関する指針」の一部改正について	総務 3-4
	医政局 地域医療計画課医療安全推進・医務指導室	（修正のお知らせ）「医療法施行規則の一部を改正する省令の施行に伴う留意事項等について」及び「病院等における医療の安全を確保するための措置について」について	総務 3-5

	保険局保険課	◇「出産育児一時金等の受取代理制度の届出について」（一覧表の更新）	総務 3-6
	医政局研究開発政策課	再生医療等の安全性の確保等に関する法律に基づく再生医療等に関連した「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」に基づく手続等の一部改正について	総務 3-7
	医薬局医薬品審査管理課	■セマグルチド（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（代謝機能障害関連脂肪肝炎）の作成及び最適使用推進ガイドライン（肥満症）の一部改正について	総務 3-8
		■チスレリズマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（胃癌）について	総務 3-9
厚生労働省	医薬局医薬品審査管理課	デュルバルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（胃癌）の作成及び最適使用推進ガイドライン（非小細胞肺癌、小細胞肺癌、肝細胞癌、胆道癌、子宮体癌及び膀胱癌）の一部改正について	総務 3-10
		■セマグルチド（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（代謝機能障害関連脂肪肝炎）における教育研修施設について	総務 3-11
	医政局地域医療計画課医療安全推進・医務指導室	医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No. 6 の公表について	総務 3-12
こども家庭庁	成育局母子保険課	令和 8 年度母子保健衛生費国庫補助金交付要綱・実施要綱の一部改正および令和 8 年度（令和 7 年度からの繰越分）母子保健衛生費国庫補助金交付要綱について	総務 4-1
		令和 8 年 6 月 24 日からの大雨に伴う災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	総務 4-2

(2) 内閣府

「内閣府『第 9 回日本医療研究開発大賞』公募のご案内」について委託先のみずほ総合研究所より周知依頼書を受領した。本件は本会のホームページに掲載し会員に周知した。

[資料：総務 5]

(3) 厚生労働省

①保険局より、自由民主党総務会長の有村治子参議院議員からの要請で、周産期に関する用語について、本会および日本産婦人科医会に意見聴収を行いたい旨依頼があり、本会からは万代昌紀先生、関沢明彦先生、亀井良政先生にご出席いただくこととなった。

- ②健康・生活衛生局 がん・疾病対策課より、潤滑ゼリー製品の国内導入にいて、本会としての意見を伺える先生の紹介依頼があり、女性ヘルスケア委員会の岩佐武先生にお引き受けいただいた。 [資料：総務 5-1]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会、日本医学会連合

①会員周知依頼（ホームページに掲載済、◇はメール案内も実施）

依頼元	内容	資料
日本医学会	第 10 回研究倫理教育研修会「医学・医療と共に進化する研究倫理」の日本医学会ホームページ公開のお知らせ	総務 6-1
	☆ハーバード大学 T.H. Chan 公衆衛生大学院 武見 国際保健プログラムのフェロー募集のお知らせ	総務 6-2

②日本医学会連合会

- ㊦日本医学会連合からの 2026 年度総会の開催案内を受領した。本会からは鈴木直副理事長に、本会議終了後に続いて開催された日本医学会の臨時評議会もあわせて出席いただいた。 [資料：総務 7-1]

- ①第 3 回診療ガイドライン統括委員長会議を開催するとの案内があり、本会からは、小林陽一診療ガイドライン運営委員会学会側調整役と澁谷裕美同委員会主務幹事にご出席いただく予定である。 [資料：総務 7-2]

- ㊦日本医学会連合より、今国会で審議中の個人情報保護法改正案について、日本医療情報学会からの提案を受けて、医学・医療におけるデータの利活用と個人情報保護の両立を図る観点から、今回の改正案はデータの利活用を促進する意図ではあるものの、個人情報保護に重大な懸念があると判断し、会長・副会長で協議のうえ緊急に意見書を個人情報保護委員会の委員長に発出したとの連絡があった。 [資料：総務 7-3]

(2) 医薬品医療機器総合機構

医薬品医療機器総合機構よりレギュラトリーサイエンス戦略相談に関する実施要綱の一部改正についての周知依頼があった。本会のホームページに掲載し会員に周知した。

[資料：総務 8]

(3) 日本専門医機構

日本専門医機構の令和 8 年度定時社員総会の招集通知を受領した。本会からは社員代表者として万代昌紀理事長にご出席いただく予定である。

[資料：総務 9]

(4) 女性アスリート健康支援委員会

女性アスリート健康支援委員会より任期満了に伴う役員改選にあたり、本会からの正会員および理事候補者推薦の依頼があった。理事候補者には大須賀穰先生に、正会員には岩佐武先生を推薦することといたしたい。（6 月末が回答期限）

[資料：総務 10]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 日本疫学会

日本疫学会より日本医学会連合の領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）「組織からのドロップアウト」予防のための AI 支援システムの開発と実装（High Treatment Effect Approach を用いた介入リソース配分の最適化を目指して）への応募に際し本会の協力についての依頼書を受領した。

[資料：総務 11]

(6) 日本女性栄養・代謝学会

日本女性栄養・代謝学会より第 50 回日本女性栄養・代謝学会学術集会の周知依頼書を受領した。本会のホームページに掲載し会員に周知した。

[資料：総務 12]

(7) 日本糖尿病学会

日本糖尿病学会より、第 32 回日本医学会総会における分科会合同シンポジウム「ベストウェイトについて考える」において、春日義史先生の登壇の依頼書を受領した。

[資料：総務 13]

(8) 日本病院薬剤師会

日本病院薬剤師会より 4 月に生殖・内分泌委員会にて実施いただいた重篤副作用疾患別対応マニュアルの改訂のアンケート結果を踏まえ、卵巢過剰刺激症候群（OHSS）の改訂の追記にとどまらず、最新の知見に基づきマニュアル全体を改めて通覧して頂きたい」とのことで、改めてマニュアル全体の確認作業依頼とスケジュールが届いた。本件は引き続き生殖・内分泌委員会にてお願いしたい。

[資料：総務 14-1, 14-2, 14-3]

(9) 日本産婦人科医会

日本産婦人科医会より、妊産婦死亡症例検討評価委員会委員として2名の推薦依頼を受領した。本件は周産期委員会に人選を検討頂き、三浦清徳先生、牧野真太郎先生（順天堂大学浦安病院）に引き続きお願いすることで内諾頂いている。

[資料：総務15]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(10) 日本小児内分泌学会

日本小児内分泌学会より、21-水酸化酵素欠損症の診断・治療のガイドライン（2021年改訂版）の改訂版作成委員会への推薦依頼（1～2名）を受領した。回答期日は7月末。

[資料：総務16]

鈴木直副理事長「本件は、周産期委員会と総務のプレコンセプションケア推進WGから各1名を推薦頂きたい。よろしくお願いします。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(11) 日本甲状腺学会

日本甲状腺学会より、「潜在性甲状腺機能低下症の治療の手引き—妊娠編—（改訂版）」の作成および「妊娠にかかわる潜在性甲状腺機能低下症の治療に関する共同声明」発出にあたっての協力依頼を受領した。作成委員の推薦依頼について生殖・内分泌委員会と周産

期委員会で検討頂き、大須賀智子先生（愛知医科大学）、川嶋章弘先生（昭和医科大学）を本会から推薦することとした。[資料：総務16-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(12) 日本肥満学会

日本肥満学会より第32回日本医学会総会 合同シンポジウム テーマ「肥満症診療 Update：現状と明日への展望」が採択された旨連絡があり、本会からは岩佐武先生がご登壇いただく予定である。[資料：総務16-2]

[Ⅳ. その他]

(1) HPV ワクチン推進議員連盟

HPV ワクチン推進議員連盟（会長：田村憲久衆議院議員）より同連盟総会開催の案内があり、本会からは川名敬先生にご出席いただいた。[資料：総務17-1, 17-2, 17-3]

(2) 神澤医学研究振興財団

神澤医学研究振興財団より、2026年度事業として①神澤医学賞（研究褒賞）の受賞候補者の募集および②研究助成および海外留学助成の候補者の募集を開始したとのことで、本会あての候補者推薦および周知依頼書を受領した。①については、学術委員会にて選考いただき、②については、本会のホームページに掲載して周知した。[資料：総務18]

(3) 久光製薬株式会社

久光製薬株式会社より、メノエイドコンビパッチ出荷再開についての周知依頼書を受領した。一斉配信メールおよび本会のホームページに掲載し会員に周知した。[資料：総務19]

(4) 協和キリン株式会社

協和キリン株式会社より「悪性腫瘍経口黄体ホルモン製剤「ヒスロンH錠200mg」の限定出荷の状況について」の知依頼書を受領した。一斉配信メールおよび本会ホームページに掲載して会員に周知した。[資料：総務20]

2) 会 計（岡本愛光常務理事）

(1) 取引銀行の格付と預金残高について [資料：会計1]

岡本愛光常務理事「5月31日末現在、本会の預金及び公共債等の残高は9億4300万となっており、安全性を重視して分散投資している。」

3) 学 術（永瀬智常務理事）

(1) 学術委員会

① 会議開催

令和8年度第1回学術担当事務会	6月22日
令和8年度第1回学術委員会	6月22日

(2)他団体の特別賞推薦依頼について

①2026 年度「日本医師会医学研究奨励賞」

理事および学術委員会委員に候補者の推薦を依頼し、推薦された候補者について学術担当理事にて選考を行った。この結果、【田口 歩（たぐち あゆみ）君（東京大学）「HPV 発がんにおける高悪性度形質獲得機構の解明と治療介入ウインドウの同定：臨床（外科系）部門」】を本会からの候補者として推薦することとなった。 [資料：学術 1]

②2026 年度「上原賞（研究業績褒賞）」

[資料：学術 2]

上原記念生命科学財団より受賞候補者推薦依頼を受領し、理事および学術委員会委員に候補者推薦を依頼した。回答期日の都合上、学術担当理事に選考をご一任頂きたい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③2026 年度「（第 29 回）神澤医学賞」

神澤医学研究振興財団より受賞候補者推薦依頼を受領し、理事および学術委員会委員に候補者推薦を依頼した。推薦候補者は学術担当理事で選考を行い、第 2 回理事会（9 月 5 日）に答申する予定。 [資料：学術 3]

(3)学術集会の在り方（演題登録時の倫理指針に関する検討）WG 報告

第 79 回学術講演会の演題登録に向け、学術集会の在り方 WG にて症例報告の要件を検討し、「症例数による一律基準は設けず、研究目的の介入や仮説検証を伴う統計解析を行わないものを症例報告とする方針」を整理した。（令和 7 年度第 4 回学術委員会ならびに第 4 回理事会にて承認済）

この方針に沿って、「カテゴリー分類および倫理的手続きに関するフローチャート」ならびに「演題応募における倫理的手続きに関しての Q & A」を一部改訂したものを、学会 HP お知らせ再掲・一斉メール配信し、会員に周知する。 [資料：学術 4-1, 4-2, 4-3]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4)プログラム委員会関連

①第 78 回学術講演会報告

学術講演会 開催校報告（速報版）ならびに、子育て支援企画等報告書（暫定版）について [資料：プログラム委員会 1, 2]

永瀬智常務理事「現時点では暫定的な中間報告になりますが、今回の目玉であった子どもさんを一緒に学会参加するといった点については、様々な意見があるようです。学会では静かな環境で聞きたいという意見もあったが、概ね好評であった。授乳室とかおむつ替えスペース、また、ミルクを溶かす水を必ず用意した方が良いなど、これらのポイントが高く、利用者のことを考えているという評価であった。さまざま意見がありますが、どの辺でバランスを取ってやるのが良いのかというところが難しいところかなと思いますが、今回の試みは概ね好評であったようです。」

②第 79 回学術講演会報告

(i) 日産婦誌 7 月号に「会告」として掲載する。

- ・第 79 回学術講演会予告（第 1 回）
- ・第 79 回学術講演会一般演題 募集要項

募集期間：令和 8 年 7 月 31 日（金）正午～9 月 16 日（水）正午

修正期間：令和 8 年 9 月 17 日（木）正午～9 月 24 日（木）正午

[資料：プログラム委員会 3, 4]

(ii) その他（開催プログラム関連）

水島大 第 79 回学術集会プログラム委員長「プログラム関連では、一般演題の募集期間が 7 月 31 日から 9 月 16 日までとなっておりますので、よろしくお願いいたします。子育て支援の需要が非常に多く、託児もすぐに予約が埋まってしまうとか、託児で預けられない場合に授乳やおむつ替えのスペースとか、そういうリクエストが非常に多くなっています。こういう支援があるから学術集会に参加できるという声も多かったと聞いておりますので、できるだけ早い時期にこういった託児施設予約ができるように、またその託児室の数も少し増やして多くの方に参加していただけるような会を企画させていただきたいと思っております。多くの学会共同企画がございます。従前から行われているものに関しては逐一お諮りはしていないが、日本婦人科腫瘍学会と婦人科悪性腫瘍研究機構との合同企画を調整させていただいております。今回が初めての組み合わせとなりますので、ご報告をいたします。」

③第 80 回学術講演会報告

日産婦誌 7 月号に「会員へのお知らせ」として掲載する。

- ・第 80 回学術講演会特別講演演者の推薦について 推薦期限：2026 年 11 月 30 日（月）
- ・第 80 回学術講演会シンポジウム担当希望者公募 提出期限：2026 年 11 月 30 日（月）

[資料：プログラム委員会 5, 6]

松岡隆 第 80 回学術集会プログラム委員長「特別講演ご演者の推薦及びシンポジウム担当希望者の公募を公表します。両方とも締め切りは 11 月 30 日になっております。」

④第 81 回学術講演会報告

日産婦誌 7 月号に「会員へのお知らせ」として掲載する。

- ・第 81 回学術講演会シンポジウム課題公募 提出期限：2026 年 11 月 30 日（月）

[資料：プログラム委員会 7]

永瀬智常務理事「第 81 回の学術講演会のシンポジウムの課題公募を会員向けに掲載する予定でございます。こちら締め切りが 11 月 30 日」

4) 編 集（梶山広明常務理事）

(1) 会議開催

令和 8 年度第 2 回和文誌編集会議／JOGR 編集会議（WEB 開催）	7 月 24 日【予定】
令和 8 年度第 2 回編集担当理事会（WEB 開催）	9 月 4 日【予定】
令和 8 年度第 3 回和文誌編集会議／JOGR 編集会議（WEB 開催）	10 月 9 日【予定】

(2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：（5 月 31 日現在）

[資料：編集 1]

(3) AOFOG 論文賞候補者の選出について

[資料：編集 2]

最終選考委員会での協議の結果、Young Scientist Award、Yuji Murata Endowment Award、Yoon Seok Chang Endowment Award それぞれ1名を finalist として選出した。

5) 渉 外 (田中守常務理事)

(1) 会議開催

第1回グローバルキャリアコミュニティ (WEB 開催)	6月11日
-----------------------------	-------

(2) 渉外小委員会としてグローバルキャリアコミュニティ (GCC) を立ち上げた。メンバーは以下の通りである。

委員長：春日義史幹事、副委員長：千草義継幹事

委員：道佛美帆子幹事、岡愛実子医師、秋田啓介医師、大岡令奈医師、山村聡俊医師

(3) 66 Kongress Deutsche Gesellschaft für Gynäkologie und Geburtshilfe e.V. (DGGG 2026、10月21-24日、於：ドイツ ミュンヘン) に於ける日独 Exchange Program に、本会より役員として万代昌紀理事長、田中守渉外委員長、および若手医師として齋藤良介医師 (東京慈恵会医科大学)、村田強志医師 (福島県立医科大学)、板井俊幸医師 (横浜市立大学) を派遣の予定である。若手医師は会期後2週間の病院研修を行う。

(4) The 112th Annual Congress of KSOG and the 31st Seoul International Symposium (KSOG 2026、11月13-14日、於：韓国 ソウル) に於ける JKT Exchange Program に、本会より役員として万代昌紀理事長、田中守渉外委員長、宮城悦子第79回学術集会長、メンターとして道佛美帆子幹事、JKT Joint Conference の各分野の Speaker として増田健太医師 (婦人科腫瘍)、高江正道教授 (生殖・内分泌)、千草義継幹事 (周産期)、小川真里子教授 (女性ヘルスケア)、および若手医師として水津枝理医師 (自治医科大学)、幸地優希医師 (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター)、宇山拓澄医師 (広島大学)、杉本大輔医師 (千葉大学)、山口峻史医師 (東北大学) を派遣の予定である。若手医師は会期後4日間の病院研修を行う。

(5) 日欧 MoA について、第78回日産婦学会学術講演会会期中の JSOG-EBCOG Officers' meeting に於ける協議を反映した改定版に両者が調印した。 [資料：渉外 1, 2]

(6) 30th EBCOG Congress (2027年5月12-15日、於：イタリア ローマ) に派遣の若手医師2名の募集を開始した。(応募〆切：8月12日)

(7) The 25th Midterm Seminar of SCGO (6月13日、於：カンボジア プノンペン) に、生殖・内分泌委員会 谷口文紀委員長が子宮内膜症に関して録画にてご講演下さった。

(8) AOFOD より、Benign Gynaecological Diseases Committee の Chair 推薦依頼を受領した。 [資料：渉外 3]

(9) 日英 MoU について、第78回日産婦学会学術講演会会期中の JSOG-RCOG Officers' meeting に於ける協議を反映した改定版に両者が調印した。 [資料：渉外 4]

6) 社 保 (甲賀かをり常務理事)

(1) 医薬品の供給停止手続きの承諾について

①6月に3件の手続き開始を承諾した。

[資料：社保1～3]

②6月に更に1件の手続き開始を承諾したい。

[資料：社保4]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) LEP 製剤処方日数制限解除に関する要望書を厚労省へ提出した。

[資料：社保5]

(3) 遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) における血縁者診断の保険適用に伴う精度管理基準を満たした LDTs の早期活用に関する要望書が 10 学会連名で厚労省に提出された。

[資料：社保6]

甲賀かをり常務理事「HBOC の診断について血縁者の診断の保険適用が通ったが、その遺伝子関連検査の精度管理基準を満たした測定法が認められていないということで、これは中医協資料、社保6、798 ページの通り関連学会連名で要望書を厚生労働大臣に提出したというご報告です。」

万代昌紀理事長「最後の LDTs という言葉は、馴染みがないかもしれませんが、ローカルで、きちっとした施設で例えば大学等で行ったものもちゃんと精度管理ができていれば保険適用に認めてほしいという要望でありました。今すごく高いお金を出して海外の遺伝子診断しているので、少しずつ日本の中にも持ってくるというのも情報管理の面からも重要な、というお話が出ているようですので、ぜひ通していただきたいと思っています。」

7) 専門医制度 (関沢明彦副理事長)

(1) 日本専門医機構関連

①会議開催

日本専門医機構 令和8年度定時社員総会	6月29日【予定】
---------------------	-----------

(2) 学会専門医制度関連

①会議開催

第2回中央専門医制度委員会、全国地方委員会委員長会議、統括責任者説明会	6月28日【予定】
試験実行委員向けの専門医認定二次審査事前WEB説明会(東京会場)	7月21日【予定】
試験実行委員向けの専門医認定二次審査事前WEB説明会(大阪会場)	7月22日【予定】

(3) サブスペシャリティ関連

①会議開催

日本専門医機構と日本婦人科腫瘍学会とのWEB面談	6月15日
--------------------------	-------

関沢明彦副理事長「日本専門医機構の次期理事として、外科系診療科推薦枠で松村謙臣先生が前期に続いて選出される予定である。また有識者枠として、加藤聖子先生が新たに理事に加わっていただけることが選考委員会では承認されておりますので、そのまま総会で承認されるものと思っています。サブスペシャリティ関連では日本婦人科腫瘍専門医がカテゴリー2として日本専門医機構から認められたわけですが、認定要件の中に、日本専門医機

構認定の資格ではないがん治療認定医があるという点について、日本専門医機構内で疑義が出ているということで意見を聴取をされた。日本専門医機構から正式にその要件を抜いてほしいという指示が来ている。」

川名敬常務理事「婦人科腫瘍学会の専門医制度の委員長をしております。我々の主張として、がん治療認定医の資格は非常に基本的な要素であり、婦人科腫瘍専門医の育成に大事だということを主張したが、あくまでも建付け上、別の機構の認定を専門医機構の認定の中に取り込むのはいかがなものか、という話が出た。申請条件の一部分だけ除いて対応しているかということで、今後また理事会等にお諮りしたいと思っております。」

万代昌紀理事長「もともと 2 階建てにする時に結構議論があり、日本婦人科腫瘍学会が率先して 1 階建ての部分にがん治療認定医をもって来たという経緯がある。むしろ、がん治療認定医は、がんの専門家ではない人たちが取ることによってがんの治療もできるという、そういう使い方をしている学会もあると思いますので、よくご議論いただければと思います。」

8) 臨床倫理監理（三浦清徳常務理事）

(1) 会議開催

第 2 回臨床倫理監理委員会（WEB 開催）	6 月 11 日
第 2 回特定生殖補助医療に関する運用検討小委員会（WEB 開催）	6 月 24 日
第 2 回 PGT に関する継続審議小委員会（WEB 開催）	7 月 9 日 【予定】
第 2 回定款・見解改定検討小委員会（WEB 開催）	8 月 3 日 【予定】
第 3 回臨床倫理監理委員会（WEB 開催）	8 月 20 日 【予定】

(2) 本会の見解に基づく諸登録（令和 8 年 6 月 8 日現在）

ヒト精子・卵子・受精胚を取り扱う研究に関する登録	138 研究（50 施設）
体外受精・胚移植に関する登録	637 施設
ヒト受精胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録	637 施設
顕微授精に関する登録	619 施設
医学的適応による未受精卵子、受精胚および卵巣組織の凍結・保存に関する登録	220 施設
提供精子を用いた人工授精に関する登録	16 施設

(3) 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

①着床前診断に関する臨床研究申請・認可について（令和 8 年 5 月 21 日）

[資料：臨床倫理 1-1, 1-2]

・施設申請（新見解基準）：承認 39 施設（うち付記があるもの：2 施設）

・症例申請（2022 年 6 月からの新見解基準）：207 例《承認 158 例、条件付き承認 18 例、不承認 6 例、照会 20 例、審査待ち 1 例、取り下げ 4 例》

(4) 不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

①PGT-A・SR 見解細則改定後の施設審査状況について（報告）

[資料：臨床倫理 2-1]

②委員の交代について

[資料：臨床倫理 2-2]

- ・日本生殖医学会から推薦いただいている委員について、杉野法広先生（山口県立総合医療センター）から岩瀬明先生（群馬大学医学部附属病院）への交代を承認いただきたい。

委嘱期間：令和8年6月27日～令和9年6月26日（令和9年度定時総会まで）

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) がん・生殖医療施設認定小委員会報告

- ①令和8年6月10日現在の妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）、温存後生殖補助医療実施医療機関審査状況・承認施設について [資料：臨床倫理 3-1]

- ・妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）：175 施設

- ・温存後生殖補助医療実施医療機関である妊孕性温存療法実施医療機関：173 施設
（うち、生殖医療専門医が不在のため、暫定施設として取り扱う施設：4 施設）

- ・妊孕性温存療法は実施しない温存後生殖補助医療のみの実施医療機関：7 施設

- ②和歌山県福祉保健部からの妊孕性温存療法実施医療機関認定要件に関する要望書拝受について [資料：臨床倫理 3-2, 3-3]

- ・施設認定要件を厳格に維持するのではなく、ある程度、地方に柔軟に対応することを念頭に、他にも相談が必要な地方自治体をリストアップして、近日中に、個別で相談する予定である。

- ③2027 年以降の施設基準に向けた施設認定の準備について

- ・症例数が少ない各都道府県をリストアップし、該当各都道府県および、がん治療施設、主な生殖医療施設と Web 面談を行って、周知を徹底する。

(6) 定款・見解改定検討小委員会報告

- ①令和8年度第1回理事会で承認いただいた見解・指針の改定案について

[資料：臨床倫理 4]

(7) 子宮移植に関する小委員会報告

- ①日本移植学会との合同委員会である子宮移植臨床研究適正実施委員会の女性外部委員として、尾藤祐子先生（神戸大学医学部附属病院 小児外科 診療科長・教授）に加わっていただきたい。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 特定生殖補助医療に関する運用検討小委員会報告

- ①「提供精子を用いた人工授精に関する見解/考え方」の改定案について、会員に意見募集を行い、現在改定案の修正についての検討を行っている。

三浦清徳常務理事「特定生殖補助医療に関する運用検討小委員会において、①の提供精子を用いた人工受精に関する見解・考え方の改定に取り組んでおります。会員から意見募集を行って検討しているところですが、ここで問題が生じまして、常務理事会でお示し

した資料では『提供者を特定する情報を得る』という文言、それは出自を知る権利と匿名・非匿名というところでは非常に重要な文言になるのですが、この文言を見解の改定案の中には入っているのですが、それをアンケートで解説する文言の中に抜け落ちていることが判明しました。会員の意見というのが、反対している方も、賛成しかねないというようなミスリードにつながる可能性がありますので、私たちの委員会としましては、その経緯についても一度再確認して次回の常務理事会、それからその次の理事会でも改めて経緯を説明させていただいて、よく審議していただきたい。もう1つは、非匿名と匿名というところが、非常に曖昧になっているのではないかとということがございますので、そこも再定義するということも次回常務理事会、理事会で審議させていただきたい。」

甲賀かをり常務理事「言葉尻を捉えるつもりはなかったのですが、大事なところだったので、提言させていただいた。」

万代昌紀理事長「専門の領域で私は門外漢ではありますが、聞けば聞くほどものすごく難しく複雑な問題で、しかもやはり重要な問題ではあると思いますので、拙速にいかないように、やはりこれは小委員会に全部責任を投げてしまうというのは無理だと思いますので、理事会である程度先生方にもご理解いただいた上で、どういう方向を定めれば良いかを、理事会の責任で決めていかないといけないことだと思います。ちょっと立ち止まりながらもう一度、三浦先生、鈴木直先生と一緒に相談しながら次の方向をまたお諮りしたいと思います。」

②オブザーバーの交代について

[資料：臨床倫理 2-2]

- ・日本生殖医学会から推薦いただいているオブザーバーについて、杉野法広先生（山口県立総合医療センター）から岩瀬明先生（群馬大学医学部附属病院）への交代を承認いただきたい。

委嘱期間：令和8年6月27日～令和9年6月26日（令和9年度定時総会まで）

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) ART 施設からの施設登録料・更新料の徴収について

[資料：臨床倫理 5]

- ①ART 施設からの施設登録料・更新料の徴収について、ART 実施登録施設にアンケートを行いたい。

三浦清徳常務理事「ART 施設からの施設登録料・更新料の徴収ということで、ART 施設に登録している施設というのは、保険診療とも関係しておりますし、前回の理事会で、実際にどれぐらいの経費がかかっているかということについて調べた上で、その負担を一部、登録施設、ART 登録施設に負担してもらっても良いのではないかと意見がございました。そこで事務局に協力いただき、実際にどれぐらいの経費が使われているかを確認したところ、ART 登録事業に年間約 800 万を費やしていることが分かりました。また、PGT-A/SR、PGT-M の施設認定や、申請の審査については、年間約 3,500 万円の経費を費やしていることが分かっています。その内、本会会員以外の協力者に対する謝金として、年間約 150 万円を本会が負担しているということです。これらの登録施設を対象として、登録料、更新料を導入してはどうかということで、まずは『登録料を取りますよ』というアンケートを実施することを考えております。こういったアンケートを実施することについてご承認いただきたいと思います。」

万代昌紀理事長「はい、よろしいでしょうか?反対のご意見も出てくるかもしれませんが、学会の責務というのもありますけど、一方で受益者負担という部分もあるかと思ひますの

で、実際の経費がどれくらいかかっているかということを示した上で、ある程度ご負担をお願いしたいと思います。」

久具宏司議長「先程の匿名・非匿名の件について、一言申しあげます。簡単に一言で匿名か非匿名と言ってしまうのですが、会員への意見書に書かせて頂きました通り、匿名はわかりやすいですが、非匿名というのは誰に対して非匿名なのかということをし、しっかり説明する必要があると思います。親に対してではなく、生まれてきた子供に対してである点が重要だと考えます。非匿名とはこういうことだ、ということをし、しっかり説明した上でアンケートを取らないと、回答がばらついてしまい、真の正しい意見が得られない可能性があると思います。その点をしっかり注意していただければと思います。」

三浦清徳常務理事「ご指摘ありがとうございます。まさにその点が非常に重要だと今回先生方からの意見をいただいて認識しましたので、今後の展開に生かしていきたいと思っております。」

万代昌紀理事長「はい、ありがとうございます。三浦委員長もずっとそれを言っておられたのですが、どうしても白か黒かという話になってですね。どうしても非匿名にしたいみたいなのが現場ではあるみたいですので、実態に即さない話にならないよう理事会としてコントロールして、定義から考えていきたいと思っております。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

9) 教 育（増山寿常務理事）

(1) 会議開催

令和 8 年度 第 1 回教育推進委員会（対面会議）	7 月 22 日【予定】
----------------------------	--------------

(2) 書籍頒布状況（2026 年 5 月 31 日現在）

	5 月販売	累計販売数
用語集・用語解説集改訂第 5 版（電子版付）	179	1,067
用語集・用語解説集改訂第 5 版（電子版のみ）	7	111
2023 年度専門医筆記試験過去問題・解説集	45	1,445
2024 年度専門医筆記試験過去問題・解説集	70	1,110
産婦人科専門医のための必修知識 2022	52	2,996

(3) 専門医試験作成委員会

1 回目の CBT 試験本番画面の確認を終え、修正箇所の洗い出しを行った。業者へ入稿後、修正を反映した試験画面確認を実施する予定である。面接問題についても引き続き検討を行っている。

(4) 産婦人科研修の必修知識編集委員会

転載許諾申請手続きの委託会社担当者を交えた打合せを実施し、申請に必要な資料の確認や申請の可否などについて整理を行った。申請の準備が整ったものから順次転載許諾申請を進めていく。

(5) 教育推進委員会

7 月 22 日に対面会議を開催し、FD 企画、委員会ホームページならびに教育研究の今後の取り組みについて検討を行う予定である。

(6) CST 実施評価委員会

新法人「一般社団法人日本 CST 監理・支援機構」へ入会する旨の書面を日本外科学会に提出した。

(7) その他

AI・DX に関する教育、人材育成、情報発信およびデータ利活用に関する理解促進を継続的に推進する組織として「AI・DX 推進ワーキンググループ（仮）」の発足を予定している。

10) 地方連絡（加藤聖子常務理事）

(1) 会議開催

令和 8 年度第 1 回地方連絡委員会（WEB 開催）	6 月 4 日
-----------------------------	---------

IV. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会（川名敬常務理事）

(1) 女性の健康週間について

日本経済社より、2026 年度女性の健康週間イベントの業務委託に関し、辞退したい旨の申し出があった。今後、新たな業務委託先の決定に向け、広告代理店を中心にお声掛けし、候補企業の選定を進めていく。

(2) 旧 Human+ の今後の取り組みについて

旧 HUMAN+ 制作当時の執筆者へ記事改訂の依頼をお送りし、執筆者の決定を進めている。過去の記事内のイラストは著作権の都合により使用できないため、別途業者に依頼しデザインを統一したデータを作成する。なお、旧 HUMAN+ の新名称については、委員会で別の名称を再度検討している。

(3) 学会公式 Instagram の活用について

学会公式 Instagram 運用状況

[資料：広報 1]

(4) ホームページアクセス状況について

[資料：広報 2]

2) 医療制度検討委員会（亀井良政常務理事）

(1) 令和 8 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））に係る調査について

「出産に係る妊産婦への総合的な支援並びに費用及び給付に関する研究」（野口班）

[資料：医療制度検討 1]

3) 災害対策・復興委員会（井篁一彦理事）

(1) 会議開催

第2回 災害対策・復興委員会（WEB開催）	2026年8月下旬～9月上旬【予定】
-----------------------	--------------------

(2) 災害対応

以下の災害が発生した際、委員会メンバー等に連絡を取り、適宜被害状況の確認を行い情報共有が行われ、被災地域の分娩施設等に影響がないことを確認した。

- ・6月2日～3日 台風6号
- ・6月8日 津波注意報（フィリピン地震）
- ・6月16日 茨城県南部地震（最大震度5弱）
- ・6月25日 青森県地震（最大震度6強）

(3) PEACE 訓練時の利用申請：7件

4) 診療ガイドライン運営委員会（小林陽一理事）

(1) 産婦人科診療ガイドライン 2026（電子版付き書籍）販売状況

	5月販売	累計販売数
産婦人科診療ガイドライン-産科編 2026	5,241	7,391
産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2026	4,062	5,529

(2) ガイドライン 2029（産科編作成・評価、婦人科外来編作成・評価）委員会メンバー候補一覧について

〔資料：診療ガイドライン 1〕

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

5) コンプライアンス委員会（齋藤豪理事）

(1) 本会役員等への COI 自己申告書の提出依頼について

本会役員、委員、刊行物執筆者等へ依頼した 2025 年度の COI 自己申告書について、対象者全員よりご提出いただいた（合計 525 名：会員 456 名、非会員 53 名、事務局 16 名）。

6) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会（齋藤昌利理事）

(1) 会議開催

加藤班合同企画 第4回班会議（WEB開催）	6月10日（水）
第1回 C-2 水準審査委員会（WEB開催）	7月30日（木）【予定】
第2回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会	8月25日（火）【予定】

(2) C-2 水準審査業務について

第1回 C-2 水準審査委員会については、今回も産婦人科領域からの申請はなく、全体の申請件数も4件にとどまったことから、委任状を提出する予定である。なお、現在、第2回審査委員会への申請を受け付けており、締切は9月17日（木）である。

7) 産婦人科未来委員会（谷口文紀理事）

(1) 会議開催

サマースクール第2回事前会議（現地開催）	6月12日
サマースクール第3回事前会議（WEB開催）	7月27日【予定】

(2) サマースクール(SS)

第20回産婦人科サマースクール

開催日程：令和8年8月22日（土）～23日（日）

会場：アートホテル大阪ベイタワー（現地開催）

内容：実技実習（分娩、帝王切開縫合、超音波・生殖）、臨床推論、
相談会、サマースクール20周年特別企画

対象者：医学部5年生、6年生

募集人数：約200名

チューター：60名

参加受付は6月1日（月）に締め切り、参加募集人数200名のところ233名の方よりお申込みいただいた。

現在、233名には参加費支払いに関する依頼をしており、入金が確認され次第、参加者として確定している。

また、第20回サマースクール開催にあたり、理事の先生方のご尽力により、多くの施設・同門会よりご寄附を賜った。ここに厚く御礼申し上げます。

※本会より交通費や宿泊費の支給はございませんが、教授の先生方におかれましては是非ご参加いただきたい（Tシャツ・お名札をご用意）。

(3) Welcome to OBGYN World! (WOW!)

第6回 Welcome to OBGYN World!

開催日程：令和8年10月10日（土） 14:00～17:30（予定）

開催形式：サテライト形式（各大学での現地参加を推奨）

対象者：医学部医学科1～4年生

募集人数：250名（予定）

参加大学・チューター：専攻医3年目～医師10年目程度（目安） 各大学2名程度

目的：産婦人科領域への興味付け、各大学の学生とチューターとの繋がりを深める

本年も Welcome to OBGYN World! (WOW!) の開催が決定した。チューター募集を6月下旬頃から開始予定である。

(4) 領域横断的連携活動事業（TEAM事業）

日本医学会連合領域横断的連携活動事業（TEAM事業）への参画依頼があり、未来委員会のイズデプスキ龍也委員が研究分担者として参画予定である。本会の連携学会としての参画について、ご承認いただきたい。

[資料：未来1,2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

8) 医療安全推進委員会（吉野潔理事）

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和8年5月の医療事故調査制度現況報告を受領した。[資料：医療安全 1]

(2) 一般社団法人日本医療安全調査機構の社員定時総会（6月17日）に、万代理事長の代理として、本委員会委員長の吉野 潔先生にWEB出席頂いた。

(3) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センターから、令和8年度センター業務における「協力学会（日本産科婦人科学会）担当者リスト」作成依頼を受領した。資料に掲載の先生方よりご快諾頂き、本会より同機構にご推薦した。[資料：医療安全 2]

(4) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センターより、1事例のセンター調査を行うため審議に協力していただける個別調査員の推薦依頼を受領した。調査部長に馬詰 武先生（北海道大学）、部会員に石岡伸一先生（町立中標津病院）と西川 鑑先生（にしかわウイメンズヘルスクリニック）を本会より推薦した。

9) 公益事業推進委員会（中島彰俊理事）

(1) 会議開催

令和8年度第1回公益事業推進委員会（WEB開催）	6月1日
--------------------------	------

(2) 寄附金使用報告書（令和7年度用）について

昨年度、本会に寄附をいただいた方に対し、「寄附金使用報告書（令和7年度）」を送付したい。[資料：公益事業 1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 本会紹介リーフレット更新について

本会紹介リーフレットを今年度用に更新する。寄附金のご支援をお願いする企業の選定を含め、効果的なアプローチ方法について現在検討を進めている。

10) 臨床研究審査委員会（廣田泰理事）

(1) 臨床研究審査報告

【旧指針】

- ① 新規申請 0件
- ② 変更申請 0件
- ③ 終了申請 0件

【人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針】

①新規申請 3件

・大分大学医学部産科婦人科学講座 教授 小林 栄仁会員より研究申請があり、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍データベース使用申請として承認された「子宮頸がん予後予測モデルの開発」について新規申請があり、審査の結果、2026年6月16日に審査結果を報告した。[資料：臨床研究 1]

- ・東京大学医学部附属病院女性外科 教授 原田 美由紀会員より研究申請があり、日本産科婦人科学会 ART データベース使用申請として承認された「日本がん・生殖医療学会 JOFR データベースに日本産科婦人科学会 ART 登録データベースを連結し、がん・生殖医療の実態と有効性を検証する研究」について新規申請があり、審査の結果、2026 年 6 月 22 日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究 4]

- ・東邦大学医学部産科婦人科学講座/東邦大学医療センター大森病院産科婦人科 主任教授 中田 雅彦会員より研究申請があり、日本産科婦人科学会周産期データベース使用申請として承認された「膜性診断の違いによる多胎妊娠の周産期合併症に関する研究」について新規申請があり、審査の結果、2026 年 6 月 25 日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究 5]

②変更申請 2 件

- ・東京科学大学生殖機能協関学分野 教授 宮坂 尚幸会員より研究申請があり、日本産科婦人科学会 ART 登録データベース使用申請として承認された「妊娠初期の気象条件と妊娠予後の関連に関する研究」について変更申請があり、審査の結果、2026 年 6 月 5 日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究 2]

- ・新潟大学医歯学総合病院 総合周産期母子医療センター 教授 西島 浩二会員より研究申請があり、日本産科婦人科学会周産期登録データベースおよび ART 登録データベースの使用申請として承認された「周産期データベースと体外受精・胚移植に関する登録データベースの連結による凍結胚移植におけるホルモン補充周期と自然周期の周産期転帰の比較研究」について変更申請があり、審査の結果、2026 年 6 月 5 日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究 3]

③終了申請 1 件

- ・順天堂大学医学部附属順天堂医院 産科・婦人科 准教授 竹田 純会員より、承認番号：142「糖代謝異常妊婦の妊娠中の至適体重増加の検討」について終了報告書が提出された。

11) 感染対策連携委員会（金西賢治理事）

(1) 会議開催

第 1 回 感染対策連携委員会（WEB 開催）	6 月 18 日
-------------------------	----------

- (2) 6 月 8 日に「RS ウイルスワクチン（アレックスビー®）の妊婦への誤接種防止のための注意喚起」を一斉配信した。 [資料：感染対策 1]

- (3) 日本循環器学会より「心血管疾患患者に対するワクチン接種に関するステートメント」に関する外部評価の依頼を受け、これに対応した。なお、査読担当者として当委員会名、および各委員名を記載した。

(4) ファイザー公募型医学教育プロジェクト助成による産婦人科領域における RS ウイルス感染症と RS ウイルス予防接種（母子免疫）の理解促進に関する教育活動として、以下の学会に於いて講演を行った。

- ・第 44 回東京母性衛生学会（5/24、東京）：川名敬先生、森岡一朗先生（日本大学）
- ・第 42 回日本産婦人科感染症学会（5/31、神戸市）：大藤さとし先生（大阪公立大学）、三浦清徳先生

12) セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) 推進委員会（角俊幸理事）

(1) 会議開催

令和 8 年度第 1 回 SRHR 推進委員会（WEB 開催）	8 月 6 日【予定】
---------------------------------	-------------

(2) 旧優生保護法検討委員会

① 会議開催

令和 8 年度第 1 回旧優生保護法検討委員会（WEB 開催）	7 月 22 日【予定】
---------------------------------	--------------

13) ダイバーシティ・人材育成推進委員会（山本英子特任理事）

(1) 会議開催

なし

(2) 男性育休に関する調査

- ・「日本の産婦人科医師における男性育児休業の取得状況、認識、および職場環境に関する研究」として、6 月 2 日より日産婦会員向けのアンケート調査をオンライン上で実施している。多くの会員からご回答いただきたい。（回答期限：7 月 21 日）

(3) 日本・アジアの産婦人科医師を対象とした「働き方とジェンダーバイアスに関する調査」

- ・台湾で倫理委員会の承認が得られ、データ収集が開始された。
- ・韓国で調査期間を延長し、データ数が 120 から 183 に増加した。
- ・フィリピン (POGS)、オーストラリア・ニュージーランド (RANZCOG) は倫理委員会審査中である。
- ・進捗状況は以下の通り（質問票 1 = 学会構成員などの調査票）。

注）令和 8 年度第 1 回臨時理事会開催後に進捗があった箇所を黒字で追加記載した。

国と学会名	会員数	担当者決定	質問票 1 回答	IRB		調査			Data 数
				提出	承認	開始	実施中	終了	
フィリピン POGS	2,046	✓	✓	✓					
オーストラリア・ニュージーランド RANZCOG	2,567	✓	✓	✓					
パキスタン SOGP	4,800	✓	✓	✓					
マレーシア OGSM	1,760	✓	✓	✓	✓	✓	✓*		15
韓国 KSOG	8,190	✓	✓	✓	✓	✓	✓*		183
台湾 TAOG	3,028	✓	✓	✓	✓	✓			

タイ RTCOG	4,046	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	66
スリランカ SLCOG	428	✓	✓			✓	✓*		24

*データ収集の追加を依頼。

14) 公的プラットフォーム設立連携委員会（加藤聖子常務理事）

(1) 会議開催

第3回公的プラットフォーム設立連携委員会（ハイブリッド開催）	7月【予定】
--------------------------------	--------

(2) 公的プラットフォーム設立連携の一環で、6月6日に第168回日本医学会シンポジウム「着床前遺伝学的検査（PGT-M）について考える」を開催した。 [資料：公的 PL1]

(3) 日本生殖医学会から、推薦委員交代の依頼があった。公的プラットフォーム設立に向け、引き続き関連学会との連携を図っていくため、杉野法広先生（山口県立総合医療センター）から岩瀬明先生（群馬大学医学部附属病院）への交代を承認いただきたい。

委員委嘱期間：令和8年6月27日～令和9年6月26日（令和9年度定時総会まで）

[資料：公的 PL2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

15) データベース管理・利活用に関する検討委員会（山上亘特任理事）

(1) 会議開催

令和8年度第1回データベース管理・利活用に関する検討委員会 （WEB開催）	6月11日
--	-------

・他団体との共同研究におけるデータ利用料の設定について、意見交換を行った。

V. その他

以上